

市町村における発掘調査の概要
平成 29 年度（2017 年度）

平成29年度 市町村教育委員会による発掘調査一覧

(平成30年3月10日現在)

番号	管内	市町村名	遺跡名	調査理由	調査機関	調査面積	備考	
1	石狩	札幌市	N434遺跡	その他建物	札幌市教育委員会	6,060 m ²		
2			K435遺跡	宅地造成	札幌市教育委員会	4,045 m ²		
3		江別市	高砂遺跡	住宅	江別市教育委員会	1,237 m ²	国庫補助事業	
4				道路	江別市教育委員会	872 m ²		
5		千歳市	キウス13遺跡	詳細分布	千歳市教育委員会	138 m ²	国庫補助事業	
6		恵庭市		ユカンボシE11遺跡	住宅	恵庭市教育委員会	158 m ²	国庫補助事業
7				柏木川7遺跡	詳細分布	恵庭市教育委員会	19.5 m ²	
8				島松仲町遺跡	詳細分布	恵庭市教育委員会	5 m ²	
9	渡島	函館市	史跡 垣ノ島遺跡	史跡整備	函館市教育委員会	79 m ²	法第125条、国庫補助事業	
10			日吉町A遺跡	道路	函館市教育委員会	3,130 m ²		
11			電電公社宿舍遺跡	道路	函館市教育委員会	1,200 m ²		
12			豊崎Q遺跡	道路	函館市教育委員会	2,277 m ²		
13		松前町	史跡 松前氏城跡福山城跡	史跡整備	松前町教育委員会	302 m ²	法第125条	
14		森町	鷲ノ木2台場跡	詳細分布	森町教育委員会	3 m ²	国庫補助事業	
15	胆振	室蘭市	絵鞆2貝塚	詳細分布	室蘭市教育委員会	1.3 m ²		
16		苫小牧市		亀谷遺跡	詳細分布	苫小牧市教育委員会	1,872 m ²	国庫補助事業
17				静川41遺跡				
18				静川42遺跡				
19				静川43遺跡				
20				覚生1遺跡	河川	苫小牧市教育委員会	1,035 m ²	
21				覚生2遺跡	河川	苫小牧市教育委員会	1,010 m ²	
22				美沢25遺跡	土砂採取	苫小牧市教育委員会	1,250 m ²	
23		伊達市	カムイタブコブ下遺跡	学術研究	伊達市教育委員会	180 m ²		
24		厚真町		新町遺跡	詳細分布	厚真町教育委員会	70 m ²	
25				富里1遺跡	詳細分布	厚真町教育委員会	68 m ²	
26		むかわ町		東雲1遺跡	詳細分布	むかわ町教育委員会	4.4 m ²	
27		オホーツク	美幌町	高野2遺跡	農業関連	美幌町教育委員会	105 m ²	国庫補助事業
28	みどり6遺跡			農業関連	美幌町教育委員会	148 m ²	国庫補助事業	
29	宗谷	利尻富士町	沼浦海水浴場遺跡	学術研究	利尻富士町教育委員会	16.5 m ²		
30			沼浦遺跡	学術研究	利尻富士町教育委員会	8 m ²		
31	根室	別海町	史跡 旧奥行白駅通所	史跡整備	別海町教育委員会	198 m ²	法第125条	
32		中標津町	標津川9遺跡	詳細分布	中標津町教育委員会	21.9 m ²		
33		標津町	ポー川河岸3遺跡	詳細分布	標津町教育委員会	12 m ²		
34		羅臼町		春蒔古丹第2チャン跡	詳細分布 自然崩壊	羅臼町教育委員会	151 m ²	国庫補助事業
35				ボン幌萌川右岸遺跡	詳細分布 自然崩壊	羅臼町教育委員会	151 m ²	
36				春松中学校遺跡	詳細分布	羅臼町教育委員会	2 m ²	

調査面積合計 25,829.6 m²

平成29年度（公財）北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧

（平成30年3月10日現在）

番号	管内	市町村名	遺跡名	調査理由	調査面積
1	渡島	木古内町	幸連5遺跡	道路（高規格道）	1,455 m ²
2			幸連遺跡	道路（高規格道）	2,896 m ²
3			札苅5遺跡	道路（高規格道）	770 m ²
4			札苅7遺跡	道路（高規格道）	893 m ²
5	上川	下川町	上名寄8遺跡	河川	700 m ²
6	オホーツク	湧別町	シブノツナイ竪穴住居群	詳細分布	30 m ²
7	胆振	厚真町	豊丘2遺跡	農業関連	1,034 m ²
8		厚真町	厚幌2遺跡	農業関連	2,038 m ²
9		厚真町	豊沢10遺跡	農業関連	613 m ²
10		伊達市	西関内3遺跡	道路	618 m ²
11		白老町	ポロト3遺跡	公園造成	440 m ²
12	根室	根室市	温根沼2遺跡	道路	4,040 m ²

調査面積合計 15,527 m²

※ 詳しくは、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター へお問合せください。[\(http://www.domaibun.or.jp/\)](http://www.domaibun.or.jp/)

平成29年度 大学等による発掘調査一覧

(平成30年3月10日現在)

番号	管内	市町村名	遺跡名	調査理由	調査面積	調査者
1	石狩	札幌市	K39遺跡	開発事業 (その他建物・ガス・電気・水道)	746 m ²	北海道大学埋蔵文化財調査センター
2		札幌市	K39遺跡	開発事業 (その他建物・電気・水道)	54 m ²	北海道大学埋蔵文化財調査センター
3		札幌市	K39遺跡	学術研究	60 m ²	北海道大学埋蔵文化財調査センター
4		札幌市	K39遺跡	学術研究	108 m ²	北海道大学埋蔵文化財調査センター
5	渡島	松前町	松前藩士の屋敷跡	学術研究	40 m ²	関根達人
6	後志	ニセコ町	西富遺跡	学術研究	15 m ²	西富遺跡調査グループ (高倉純)
7		倶知安町	峠下遺跡	学術研究	44 m ²	札幌国際大学 (坂梨夏代)
8	宗谷	礼文町	浜中2遺跡	学術研究	32 m ²	北海道大学アイヌ・先住民研究センター (加藤博文)
9	オホーツク	北見市	吉井沢遺跡	学術研究	12 m ²	夏木大吾
10		北見市	大島1 (TK-10) 遺跡	学術研究	144 m ²	東京大学大学院人文社会系研究科 (熊木俊朗)
11		北見市	大島2 (TK-11) 遺跡	学術研究	311 m ²	東京大学大学院人文社会系研究科 (熊木俊朗)
12		置戸町	勝山2遺跡	学術研究	16 m ²	鶴丸俊明
13		置戸町	共栄3遺跡	学術研究	7 m ²	中沢祐一
14		置戸町	置戸山2遺跡	学術研究	9 m ²	大塚宜明
15		遠軽町	タチカルシナイ遺跡	学術研究	25 m ²	夏木大吾
16	胆振	豊浦町	礼文華遺跡	学術研究	60.5 m ²	小杉康
17	十勝	上士幌町	嶋木遺跡	学術研究	27.5 m ²	首都大学東京都市教養学部 (出穂雅実)
18		大樹町	浜大樹2遺跡	学術研究	88 m ²	深澤百合子

調査面積合計 1,799 m²

※ 詳しくは、各大学等へお問合せください。遺跡の位置などは、「北の遺跡案内」をご覧ください。

[「北の遺跡案内」](http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm) (<http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm>)

市町村による発掘調査の概要（平成29年度）

ご覧になりたい遺跡をクリックするとページに移動します。

石狩管内

- 札幌市 [N 4 3 4 遺跡](#)
[K 4 3 5 遺跡](#)
- 江別市 [高砂遺跡](#)
- 千歳市 [キウス 1 3 遺跡](#)
- 恵庭市 [ユカンボシE 1 1 遺跡](#)
[柏木川 7 遺跡](#)
[島松仲町遺跡](#)

渡島管内

- 函館市 [史跡 垣ノ島遺跡](#)
[日吉町A遺跡](#)
[電電公社合宿舎遺跡](#)
[豊崎Q遺跡](#)
- 松前町 [史跡 松前氏城跡福山城跡](#)
- 森町 [鷺ノ木 2 台場跡](#)

根室管内

- 別海町 [史跡 旧奥行臼駅通所](#)
- 中標津町 [標津川 9 遺跡](#)
- 標津町 [ポー川河岸 3 遺跡](#)
- 羅臼町 [春荊古丹第 2 チャンシ跡](#)
[ポン幌萌川右岸遺跡](#)
[春松中学校遺跡](#)

胆振管内

- 室蘭市 [絵鞆 2 貝塚](#)
- 苫小牧市 [亀谷遺跡](#)
[静川 4 1 遺跡](#)
[静川 4 2 遺跡](#)
[静川 4 3 遺跡](#)
[覚生 1 遺跡](#)
[覚生 2 遺跡](#)
[美沢 2 5 遺跡](#)
- 伊達市 [カムイタプコブ下遺跡](#)
- 厚真町 [新町遺跡](#)
[富里 1 遺跡](#)
- むかわ町 [東雲 1 遺跡](#)

オホーツク管内

- 美幌町 [高野 2 遺跡](#)
[みどり 6 遺跡](#)

宗谷管内

- 利尻富士町 [沼浦海水浴場遺跡](#)
[沼浦遺跡](#)

このホームページについてのお問合せや、
北海道の遺跡をもっと知りたい方は・・・

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

住所：札幌市中央区北 3 条西 7 丁目

電話：011-231-4111 内線35-626

北の遺跡案内

<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm>

札幌市 N434遺跡 (A-01-434)

発掘主体：札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）

調査理由：開発事業（その他建物）

調査地：札幌市西区八軒5条東5丁目757-12

調査期間：平成29年6月5日から11月7日まで

調査面積：6,060㎡

調査の概要

N434遺跡は、札幌市北部の沖積平野に立地する遺跡で、JR八軒駅から南南東へ約500～600m付近に位置しています。遺跡付近は琴似川の左岸にあたり、現在の標高は約12mです。今回の発掘調査では、擦文時代、続縄文時代、縄文時代晩期の遺物包含層が確認されました。

擦文時代の包含層からは、竪穴住居跡9軒、炉跡5基、焼土粒集中7ヵ所等が検出され、擦文土器や紡錘車、礫石器等の遺物が出土しました。竪穴住居跡には、焼土や炭化材が多く堆積しているものもあり、住居の屋根や柱が焼け落ちた可能性が考えられます。

続縄文時代の包含層からは、炉跡4基、焼土粒集中4ヵ所が検出され、続縄文土器や剥片石器、礫石器等の遺物が出土しました。

縄文時代晩期の包含層からは、炉跡29基、焼土粒集中17ヵ所、炭化物集中11ヵ所、土坑17基が検出されました。また、炉跡を中心に、円形ないし楕円形に柱穴・土坑が密集する範囲が5ヵ所見つかっており、これらは住居跡の可能性が考えられます。遺物は、縄文土器や剥片石器、礫石器、石製品等が出土しました。発掘区南東側の一部では、縄文時代晩期の包含層が後世の河川によって開析されていることを確認しました。

なお、調査の成果については、平成30年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



竪穴住居跡調査状況（擦文時代）

この遺跡についてのお問合せは・・・

札幌市埋蔵文化財センターまで

住所：札幌市中央区南22条西13丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始（ただし、5月3～5日、11月3日は開館）

札幌市 K435遺跡 (A-01-435)

発掘主体：札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）
調査理由：開発事業（宅地造成）
調査地：札幌市北区北21条西13丁目1番
調査期間：平成29年6月1日から9月29日まで
調査面積：4,045㎡

調査の概要

K435遺跡は、札幌市北部に広がる沖積平野に立地する遺跡で、札幌工業高校の北側に隣接しています。現在の遺跡付近の標高は約10～11mです。K435遺跡ではこれまでに2度の発掘調査が行われており、平成2・3年の調査では擦文時代の竪穴住居跡24軒、炉跡50基などが、平成10年の調査では縄文時代の炉跡6基などが見つかっています。

明治時代に記録された地図や近年の発掘調査の結果から、遺跡周辺にはかつて河川が流れており、流域には擦文時代の遺跡が数多く存在することが知られています。今回の発掘調査においても調査区の西側から埋没河川跡が見つかり、この埋没河川跡に沿って擦文時代の遺構・遺物が確認されました。

遺構では竪穴住居跡が9軒見つかりました。平面形は隅丸方形や円形のものがあり、大きさは最も大きな竪穴住居跡の長軸が約7.8m、最も小さな竪穴住居跡の長軸が約4.0mありました。また、竪穴住居跡の堆積土には多くの炭化材や炭化物が含まれていたことから、住居の屋根や柱が焼け落ちた可能性が考えられます。その他の遺構として土坑2基、焼土粒集中2ヵ所、炭化物集中1ヵ所、柱穴3基が見つかりました。

遺物は、発掘区と竪穴住居跡の中から、擦文土器、須恵器、土製品、金属製品、礫などが出土しました。

なお、発掘調査の成果については、平成30年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



竪穴住居跡調査状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

札幌市埋蔵文化財センターまで

住所：札幌市中央区南22条西13丁目

電話：011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：祝日・振替休日・年末年始（ただし、5月3～5日、11月3日は開館）

江別市 高砂遺跡 (A-02-012)

発掘主体： 江別市教育委員会
調査理由： 開発事業（住宅、道路）
調査地： 江別市高砂町19-11ほか
調査期間： 平成29年6月1日から10月31日まで
調査面積： 2,109㎡

調査の概要

高砂遺跡は、野幌と江別の間にあたるJR高砂駅の西側に広がり、国道12号より東へ200m、かつては石狩川へ注ぎ込んだ旧モショッケ（虫除）川の右岸に位置します。

昭和39年の本格的な第1次調査から、53年間で24次の調査を行っています。約9万㎡にも及ぶ広大な面積のうち、1/3程にあたる31,500㎡余をこれまでに調査し、住居跡約220軒、土壇墓や落とし穴などの土壇が1,500基を超える集落跡の遺跡です。遺物は、熊の頭をイメージした装飾品や各種玉類のほか土器・石器など116万点以上を数え、市内においては、内容もさることながら、規模や数量で最大級の遺跡となっています。

今年度の調査では、同一遺跡内で2つの事業を調査し、住居跡等が5軒、土壇等58基、落とし穴12基、焼土47ヵ所などを検出しています。

遺物も、縄文時代早期の貝殻文土器をはじめ、縄文時代前期、中期、後期、晩期、続縄文時代から擦文時代まで、全ての時期の土器や石器1万5千点以上が出土しています。

最初の事業である住宅地内の調査では、落とし穴12基を検出しています。特に、これまでで一番深いと思われる1.5mと1.3mを測る落とし穴同士が切り合っていた見つかりました。これまでに100基近く調査を行ってきた高砂遺跡では、今までにこのような例がなく、この遺跡では、はじめてのことです。市内でも西野幌11遺跡など僅かな例しかありません。

また、2つ目の事業で行った高砂遺跡南側の調査では、縄文時代中期の小型の住居跡をはじめ、縄文時代晩期から続縄文時代初頭の土壇33基が集中し、隣接する前回の鉄西線道路拡幅工事での調査と合わせ38基が、僅か12~13mのスペースに集中しています。さらに遺構は、遺跡の東側へ延びる可能性があります。



遺構群



玉

この遺跡についてのお問合せは・・・

江別市郷土資料館まで

住所：江別市緑町西1丁目38

電話：011-385-6466

開館時間：9:30~17:00（最終入場16:30）

閉館日：月曜日・祝日の翌日・年末年始

千歳市 キウス13遺跡 (A-03-295)

発掘主体：千歳市教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：千歳市中央410-2

調査期間：平成29年6月5日から10月13日まで

調査面積：138㎡

調査の概要

国史跡キウス周堤墓群は、JR千歳駅から北東に8kmほど離れた、馬追丘陵西麓の丘陵緩斜面、標高16～20mに立地しています。千歳市は、史跡の保護に万全を期すため、史跡周辺地区の埋蔵文化財詳細分布調査を平成25年度から実施しています。平成27～29年度の調査は、7つの周堤墓が群集する史跡指定地の北側の区域を対象にしています。

29年度は、28年度に引続き、チャシ川の北、国道337号の東側に所在するキウス6号周堤墓史跡指定地周辺区域で、縄文時代後期の竪穴住居跡、墓壇ほかを調査しました。

竪穴住居跡は、1軒だけ内部を完全に発掘しています。この住居は土葺きであり、火災にあったことが大量の炭化材と焼けた土が検出されたことから分かりました。竪穴の内部及び周辺から、土器、石器があわせて7,500点ほど出土しました。土器は、「鮭澗（ほっけま）式土器」と呼ばれるものです。住居跡はこのほかに5軒が確認されています。チャシ川の北、国道337号の東側の区域は、周堤墓が造られる前の「鮭澗式土器」の時期には居住域として利用されていたことが明らかになりました。



竪穴住居跡の内部完掘の様子
長径6.3m、短径5.2m、深さ約60cm。
床面中央の黒く丸く見える部分が炉跡。

この遺跡についてのお問合せや、千歳市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

千歳市教育委員会 埋蔵文化財センターまで

住所：千歳市長都42-1

電話・FAX：0123-24-4210

Eメール：maibun@city.chitose.lg.jp

開館時間：9:00～17:00

閉館日：土曜日、月の第2日曜日を除く日曜日、祝日、12月29日～1月3日

恵庭市 ユカンボシE11遺跡 (A-04-117)

発掘主体： 恵庭市教育委員会

調査理由： 開発事業（住宅）

調査地： 恵庭市和光町5丁目513-3

調査期間： 平成29年6月27日から7月24日まで

調査面積： 158㎡

調査の概要

遺跡はJR千歳線恵庭駅から南東約1.3kmの市街地に位置し、源流部から約2km下流のユカンボシ川右岸段丘上（標高27～29m）に立地します。今回の調査区は現在のユカンボシ川から約50mの位置にあります。ユカンボシ川は市内南部を流れる延長約6.6kmの小河川で、上中流は恵庭市、下流は千歳市を流れており、恵庭市内のユカンボシ川流域では15ヵ所の遺跡が確認されています。ユカンボシE11遺跡は、これまでに平成13・22・23年度の3ヵ年で4回の発掘調査が実施されており、平成29年度は5回目の発掘調査となります。

今回の発掘調査で確認された遺構は、アイヌ文化期と推定される平地住居跡1軒、柱・杭穴22個（このうち8個は平地住居跡に伴うものと考えられる）、礫集中1ヵ所、縄文時代中期から後期と推定される竪穴建物跡3軒、土坑15基、焼土3ヵ所、土器集中2ヵ所があります。遺物は、縄文時代早期・中期・後期・晩期の土器が約2,500点、石鏃などの石器が約60点、黒曜石などの剥片類が約700点、礫が約200点出土しました。アイヌ文化期と推定される遺物は礫集中の礫のみで、平地住居跡が確認されているものの、それに伴う遺物はありませんでした。出土した土器の9割は縄文時代中期後半から後期初頭のものと考えられ、竪穴建物跡にも伴って出土していることから、竪穴建物跡もこの時期の遺構であると推定することができます。

報告書は平成30年3月に刊行予定です。



調査状況



1号竪穴建物跡

恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

恵庭市郷土資料館まで

住所：恵庭市南島松157-2 電話：0123-37-1288

ホームページ：<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/genre/000000000000/1373345919868/index.html>

開館時間：9:30～17:00

閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始



えにわし かしわぎがわなないせき

恵庭市 柏木川7遺跡 (A-04-024)

[一覧へ戻る](#)

発掘主体： 恵庭市教育委員会

調査期間： 平成29年5月8日

調査理由： 詳細分布

調査面積： 19.5㎡

調査地： 恵庭市柏陽町3丁目233-2

調査の概要

遺跡はJR千歳線恵庭駅から北西に約2.4kmの市街地に位置し、源流部から約2.7km下流の柏木川右岸段丘上に立地しています。今回の調査区は現在の柏木川から約150mの位置にあります。今回の調査は、将来の開発等が予想される区域（約1,200㎡）において、遺跡の範囲と内容を確認するために、幅1m、長さ1.5mの試掘坑を13ヵ所に設けて行いました。調査の結果、竪穴住居跡2軒が確認され、縄文土器や石器が約100点出土しました。



試掘坑



えにわし しままつなかまちいせき

恵庭市 島松仲町遺跡 (A-04-054)

発掘主体： 恵庭市教育委員会

調査期間： 平成29年8月23日

調査理由： 詳細分布

調査面積： 5㎡

調査地： 恵庭市島松仲町3丁目343

調査の概要

遺跡はJR千歳線島松駅から南に約600mの市街地に位置し、源流部から約4.7km下流の柏木川左岸段丘上に立地しています。今回の調査区は現在の柏木川から約230mの位置にあります。今回の調査は、将来の開発が予想される区域（約210㎡）において、遺跡の範囲と内容を確認するために、幅1m、長さ1mの試掘坑を5ヵ所に設けて行いました。調査の結果、この区域では過去の造成による削平の影響がみられたものの、縄文土器や石器など約30点の遺物が出土しました。遺構は確認されませんでした。



試掘坑

恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

恵庭市郷土資料館まで

住所：恵庭市南島松157-2 電話：0123-37-1288

ホームページ：<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/genre/000000000000/1373345919868/index.html>

開館時間：9:30~17:00

閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始



函館市 日吉町A遺跡 (B-01-015)

発掘主体： 函館市教育委員会

調査地： 函館市日吉町4丁目64-8、67-2・29

調査実施： 一般財団法人道南歴史文化振興財団

調査期間： 平成29年5月22日から9月29日まで

調査理由： 開発事業（道路）

調査面積： 3,130㎡

調査の概要

日吉町A遺跡の発掘調査は、本年度で3年目となります。今年度の調査区は、ストーンサークルの発見された昭和45年度調査区の北側隣地にあたります。この地点の地形は、湯の沢川に合流する2ヵ所の沢地形とこれらに挟まれた標高51m前後の平坦面により構成されています。調査区の西端部および東側で発見された沢状地形の包含層には、遺物が比較的良好な状態で残存していましたが、調査区中央付近の平坦地では、包含層は削平されていました。

遺構と遺物

今回の発掘調査では土坑11基、掘立柱建物跡4棟、落し穴5基、柱穴状土坑7基、屋外炉1基、焼土116ヵ所が発見されました。

調査区中央から西寄りには長楕円形の土壇墓2基を含む土坑7基のまとまりが発見されています。また、これら土坑の周辺からは掘立柱建物跡が4棟、屋外炉1基も発見されています。昭和45年度調査区で発見されたストーンサークルに最も近い地点では、土坑2基と調査区の東側に点在するように長楕円形の落し穴5基が発見されています。また、東側の沢地形を中心に過年度の調査でも多数発見している焼土のまとまりが認められました。これらの遺構の大半は、遺構内およびその周辺から出土した遺物などから、縄文時代後期に属するものと考えられます。

土壇墓とした2基の遺構は、平面形が長楕円形で、覆土は人為的な埋め戻しを呈しています。うち1基の覆土から、長さ1m程度、幅7～15cm程の波打った棒状の炭化遺物が出土しました。平成27年度の調査区からは、本年度同様の規模・形状の複数の土壇墓により、湯の沢川の崖面近くに墓域が形成されていることが判明しています。その形状は、マウントの無い環状土籬を想定させるものでした。本年度の土壇墓も別な墓域を形成する可能性が考えられます。

遺物は土器片・石器類が2,000点弱出土しました。主体は縄文後期の遺物で、調査区中央から西側は後期前葉の、東側の沢地形の周辺では後期後葉の遺物が主に出土しています。調査区の西寄りにある土坑のまとまりやその周辺の遺構については、後期前葉に属する可能性が考えられます。東側の沢地形の周辺からは鯰澗式土器相当の注口土器片が出土しました。石器は剥片石器と礫石器の各器種が出土しています。



作業全景



土壇墓の調査風景

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆日吉町A遺跡について

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4-13 電話：0138-21-3472

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

◆函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市白尻町551-1 電話：0138-25-2030

開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など



函館市 電電公社合宿舎遺跡 (B-01-295)

発掘主体： 函館市教育委員会	調査地： 函館市臼尻町353-1、354-1ほか
調査実施： 一般財団法人道南歴史文化振興財団	調査期間： 平成29年5月8日から10月6日まで
調査理由： 開発事業（道路）	調査面積： 1,200㎡

調査の概要

遺跡は、臼尻町の弁天岬を望む標高約39.0～40.0mの海岸段丘上に位置しています。電電公社合宿舎遺跡の調査としては3年目の調査にあたります。駒ヶ岳火山灰（Ko-f・g）を挟んで、上下2層の文化層（Ⅲ・Ⅴ層）を発掘調査しました。

Ⅲ層の調査

Ⅲ層は縄文時代後期前葉を主体としています。発掘調査により発見した遺構は、竪穴建物跡5軒、土坑30基、柱穴状土坑20基、焼土2ヵ所です。竪穴建物跡は調査区北西側と東側の標高39.5mの地点にあり、土坑、柱穴状土坑は北東側標高39.25mの地点に多く分布していました。竪穴建物跡の平面形状は、隅丸方形を呈するものが1軒ありましたが、他の4軒は調査区の外に広がるため、全容は不明です。竪穴建物跡の中には、石囲炉に配石を伴うものが3軒、コの字状の土盛した炉に配石が伴うものが1軒発見されています。炉の位置は住居中央のやや東側に作られ、大型の扁平礫が北西側に配置されていました。土坑は30基検出されています。平面形は楕円形、円形、長楕円形、不整形円形、全容不明なものがありました。柱穴状土坑は、0.35～0.77m程の深さで、20基が発見されています。北西側と北東側には4本柱の建物が想定できる配列が確認されています。

遺物は、土器約3,900点、石鏃、石槍、スクレイパー、石斧、敲石、擦石、石製品などの石器類が約1,600点出土しました。

Ⅴ層の調査

Ⅴ層は縄文時代早期末葉を主体としています。発掘調査により発見した遺構は、竪穴建物跡2軒、土坑59基、焼土6ヵ所、剥片集中1ヵ所です。竪穴建物跡は、調査区西側中央に1軒、南側中央から1軒発見されています。竪穴の規模と平面形は、直径5.5mで円形のもの、長軸5.2mの隅丸長方形を呈するものです。土坑の平面形は楕円形、円形、不整形円形、不整形楕円形、長楕円形と全容不明なものがありました。

遺物は土器が約4,200点出土しており、縄文早期後葉の撚糸文系土器が主体を占めます。石器は、石鏃、つまみ付ナイフ、スクレイパーなどの剥片石器、敲石、擦石、石錘、石皿などの礫石器類が約3,900点出土しています。遺物は調査区南西隅から西側に6mで弧状に出土し、平成27・28年度調査で確認されていた“遺物分布帯”が半円状に形成されていることが明確になりました。

報告書は平成29年度に刊行の予定です。



Ⅲ層の調査 PD-7完掘



Ⅴ層の調査 遺物の出土状況

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆電電公社合宿舎遺跡について

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4-13 電話：0138-21-3472

ホームページ： <http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

◆函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市臼尻町551-1 電話：0138-25-2030

開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など



函館市 豊崎Q遺跡 (B-01-322)

発掘主体： 函館市教育委員会

調査地： 函館市豊崎町204-1

調査実施： 一般財団法人道南歴史文化振興財団

調査期間： 平成29年5月8日から10月19日まで

調査理由： 開発事業（道路）

調査面積： 2,277㎡

調査の概要

遺跡は大舟川右岸の標高約30mの河岸段丘上に立地する縄文時代早期と後期の集落跡です。平成29年度の調査では、縄文時代前期以降の遺物包含層（Ⅲ層）と駒ヶ岳火山灰 [Ko-f・g]（Ⅳ層）の下にある縄文時代早期の遺物包含層（Ⅴ層）を発掘調査しました。調査区は「はまゆり団地」の跡地にあたり、2段の段丘面を団地造成のために削平・埋め立てした地形でした。上下2段の段丘面から、沢状の地形が確認されています。

Ⅲ層の調査

発見された遺構は、柱穴状土坑20基、焼土20ヵ所です。柱穴状土坑は比較的まとまった範囲で検出されましたが、建物跡等の明確なプランは確認できませんでした。柱穴状土坑の帰属時期は、出土遺物から縄文後期中葉に属するものがほとんど見られます。

焼土の多くは平坦面に形成されたもので、斜面からは廃棄されたものも検出されています。焼土もまた、出土遺物や分布範囲から縄文後期中葉に属するものと考えられます。

遺物は調査区北側の低位段丘面に集中し、段丘縁辺部に向かって多く出土しました。縄文後期中葉を主体とする土器や石鏃、スクレイパー、石斧、敲石、擦石などの石器類が合わせて約3,500点が出土しました。また、クリを主体とする炭化した堅果類の集中が発見されています。

Ⅴ層の調査

土坑1基、焼土1ヵ所が発見されました。焼土には数mm程の赤色粒が多く含まれていました。

遺物は縄文時代早期中葉の爪形文尖底土器や貝殻文平底土器、スクレイパー、擦石、石皿などの石器類合わせて約500点が出土しました。遺物の分布は低位・高位両段丘面に見られる沢地形の底部に集中する傾向が見られました。沢地形の底は、Ⅴ層中に見られる夥しい量の大小の垂角礫が無く、風よけにも適した空間と考えられます。また、土器とともに石皿と擦石がまとまって出土していることから、この時期の共同の作業場のような空間利用が考えられます。

報告書は平成29年度に刊行の予定です。



Ⅴ層調査風景



Ⅴ層遺物検出状況

この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆豊崎Q遺跡について

函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当

住所：函館市東雲町4-13 電話：0138-21-3472

ホームページ：<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/>

◆函館市内の遺跡について

函館市縄文文化交流センター

住所：函館市白尻町551-1 電話：0138-25-2030

開館時間：（4月～10月）9:00～17:00、（11月～3月）9:00～16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など

松前町 史跡 松前氏城跡 福山城跡 (B-02-053)

発掘主体： 松前町教育委員会

調査理由： 歴史生き活き！史跡等総合活用整備事業（史跡等保存整備）

調査地： 松前郡松前町字松城（二ノ丸地区南西部：字松城146・148・149番地）

調査期間： 平成29年7月3日から10月31日まで

調査面積： 302㎡

調査の概要

福山城は、前身となる福山館を改修・補強し、安政元年（1854）に完成した旧日本式城郭で、外国船打ち払いのため、海に面した三ノ丸に7基の台場を持つという特色があります。明治8年（1875）までに、三層天守と本丸御門、本丸御殿を残して城内の石垣や建物が取り壊されました。三層天守は一時国宝となりましたが、昭和24年（1949）に焼失し、現在は「福山城（松前城）本丸御門」が重要文化財として保存されています。昭和50年度に第一次保存管理計画を、平成8年度には第二次保存管理計画を、平成28年度には第三次計画となる保存活用計画を策定し、これに基づき史跡整備事業を進めています。

今年度は、従前からの目標であった階段遺構の残存状況をさらに精査するため、遺構確認調査を実施しました。その結果、複数の束石を検出しました。これらの束石は、据えられている面と材質から3時期に区分できます。すなわち、コンクリート束石の時期、グリーンタフ束石の時期、自然石束石の時期です。なかでも自然石束石は最も古い時期で、『福山城見分図』などの絵図との比較から、「御鷹部屋」に伴う束石の可能性があります。このほか、近代以降の「ムロ」とみられる石積みや、柱穴、石列、ゴミ穴を検出しました。しかし、近代以降の造成によるかく乱・削平が大きかったことで、当初の目標であった階段遺構を検出することはできませんでした。

出土遺物は、近世～現代にかけての陶磁器、燻瓦、施釉瓦、古銭（寛永通宝）、ガラス製品などがあげられます。



3時期の束石の検出状況



鷹部屋に伴うとみられる束石

この遺跡についてのお問合せや、松前町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆ 史跡松前氏城跡福山城跡について

松前町育委員会 文化社会教育課まで

電話：0139-42-3060

◆ 松前町内の遺跡について

松前町郷土資料館まで

住所：松前町字神明30

電話：0139-42-3060

開館時間：9:00~16:30

開館期間：毎年4月1日~12月10日

森町 鷺ノ木2台場跡 (B-14-026)

発掘主体：森町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：森町字鷺ノ木455、JR湯ノ先トンネル上

調査期間：平成29年7月21日から10月5日まで

調査面積：3㎡

調査の概要

鷺ノ木2台場跡は森町市街地の西方約4km、桂川左岸の標高約42mの舌状台地上に立地しています。史跡鷺ノ木遺跡からは北東約1kmに位置しています。

明治元年から始まる箱館戦争に際し、森町に上陸した旧幕府軍が後方拠点として建設した台場として伝えられています。近世の野戦築城技術や海防、箱館戦争における旧幕府軍の動向を探る上で、重要な遺跡になります。しかし、昭和初期には崩れて埋まったとされており、文献資料等で示される台場跡の位置がそれぞれ異なっている現状です。

今年度の調査では、台場跡の位置を特定するため、踏査、地形測量と試掘調査を実施しています。踏査と地形測量の結果、鷺ノ木2台場跡が存在すると伝えられている地点に平坦地とそれと隣接した溝状の落ち窪みを確認しました。この地点からは噴火湾だけではなく、森町市街地や旧幕府軍が本営を設置していた旧霊鷲院跡（現鷺ノ木史跡公園）を望むことができます。さらに、この地点の堆積土層を確認するため、平坦地、溝状の落ち窪みと丘陵上の3ヵ所に1m×1mの試掘坑を設定し試掘調査を行っています。

試掘調査では表土層（I層）から縄文時代の遺物包含層（V層）までを掘削しました。平坦地に設定した試掘坑では、表土層と1640年の駒ヶ岳噴火により堆積した駒ヶ岳d火山灰層の間に、しまりのやや強い黒褐色の土層を確認しました。この層は他の試掘坑では確認されておらず、平坦地にのみ存在するものと思われませんが、遺構面かどうかは今回の調査では分かりませんでした。また、3ヵ所の試掘坑それぞれにおいてV層中で縄文時代中期から続縄文時代までの遺物が出土しています。

今回の発掘調査成果は、平成29年度末に報告書を刊行予定です。



鷺ノ木2台場跡遠景

この遺跡についてのお問合せや、森町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆鷺ノ木2台場跡について

森町教育委員会まで
電話：01374-2-2186

◆森町内の遺跡について

森町遺跡発掘調査事務所まで
住所：茅部郡森町字森川町292-24
電話：01374-3-2240
開館時間：9:00~16:00
閉館日：土日祝日・年末年始



室蘭市 絵鞆2貝塚 (J-01-001)

発掘主体： 室蘭市教育委員会

調査地： 室蘭市絵鞆町2丁目1-1・2

調査理由： 詳細分布

調査期間： 平成29年5月18日から5月26日まで

調査面積： 1.3㎡

調査の概要

絵鞆2貝塚は、北海道南部・噴火湾の東端に位置する絵鞆半島の先端部に所在します。海岸に面した段丘面上、湾内に向かう斜面地で、調査地の標高はおおよそ14mです。

この貝塚は、昭和44年に一度発掘調査が行われており、近世～明治初期のころの貝塚遺跡であることが判明しています。しかしながら、遺跡の広がりや詳細な時期、内容などについては、その後調査が行われておらず不明であり、周辺の宅地化などもあり、検討がしがたい状況にあったところです。

このような中、平成29年には周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地にあたる箇所を、地権者のご厚意の元、調査する機会をいただきました。周辺が舗装等なされ宅地化が進行しているなか、このたびの調査地点は、畑として使われており、現地には貝殻が散乱し、土器等の遺物も表採可能。貝塚の所在が推測されました。遺跡の堆積状況等の基礎的なデータを把握することを目的に、小規模な調査区を設定し調査を行いました。

調査区設定後、掘削を開始すると、現地表面の直下から、続縄文土器1個体が、倒立した状態で検出されました。遺存状態などから、遺構に伴う可能性が高いものと判断され、限られた調査日数の中、検出された箇所の調査に主眼を置いて検討を進めました。

精査を行うと、土器が土坑に埋納された状態であることが確認できました。土坑の輪郭は直径0.8mほどの円形で、堆積状況の検討を行いつつさらに調査を進めたところ、この土坑の中には、当初検出された個体のほか2つ、計3個体の土器が埋納されていることが判明しました。

出土した土器は、続縄文前半期の恵山式。同時期に埋設された一括性の高い資料です。壊れていない状態で土器が埋められていたこの土坑は、お墓と考えられます。

この調査の結果、絵鞆2貝塚が従来把握されていたより広い範囲で残されており、時期的にもより古く、縄文晩期以降の生活の場として使われていたことが明らかになりました。



遺跡遠景



調査状況

この遺跡についてのお問合せや、室蘭市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆絵鞆2貝塚について

室蘭市教育委員会 生涯学習課まで

電話：0143-22-5094

Eメール：syougaiakusyuu@city.muroran.lg.jp

◆室蘭市内の遺跡について

室蘭市民俗資料館まで

住所：室蘭市陣屋町2丁目4番25号

電話：0143-59-4922

開館時間：10:00～16:00

閉館日：月曜日・年末年始・祝日の翌日・1月20日～3月19日

苫小牧市 亀谷遺跡 (J-02-026)

静川41・42・43遺跡 (J-02-288・289・290)

発掘主体： 苫小牧市教育委員会（市埋蔵文化財調査センター）

調査理由： 詳細分布

調査地： 苫小牧市字静川162-1、164-1ほか

調査期間： 平成29年6月17日から8月3日

調査面積： 1,872㎡（1.5×6mの試掘溝208本）

調査の概要

苫東開発区域内の静川地区で試掘調査を行いました。新たに静川41～43遺跡を確認しました。遺跡は道道上厚真苫小牧線の南側、静川台地の南端部に位置しています。

亀谷遺跡は土器・石器等19点、静川41遺跡は石器等5点、静川42遺跡は土器・石器等8点、静川43遺跡は土器3点が出土しています。静川43遺跡が続縄文時代のほかは縄文時代の遺跡です。



亀谷遺跡・静川41・42・43遺跡位置図

苫小牧市 覚生1・2遺跡 (J-02-215・291)

発掘主体： 苫小牧市教育委員会（市埋蔵文化財調査センター）

調査理由： 河川（樽前山火山砂防工事）

調査地： 苫小牧市字錦岡495番750

調査期間： 平成29年9月1日から11月4日まで

調査面積： 覚生1遺跡 1,035㎡ 覚生2遺跡 1,010㎡

調査の概要

樽前山火山砂防工事に伴う熊の沢川2号砂防えん堤建設工事に伴い発掘調査を行いました。覚生1遺跡は覚生川の支流熊の沢川の左岸、覚生2遺跡は右岸に位置しています。

覚生1遺跡は落とし穴8基のほか、土器・石器等88点出土しています。平成30年度も継続して調査を行う予定です。時期は縄文時代と続縄文時代で、続縄文時代の土器が1個体分見つかっています。覚生2遺跡は管理用道路建設に伴う工事立会で落とし穴17基を発見し、調査しました。



覚生1・2遺跡位置図

とまこまいし みさわにじゅうごいせき

苫小牧市 美沢25遺跡 (J-02-287)

発掘主体： 苫小牧市教育委員会（市埋蔵文化財調査センター）

調査理由： 土砂採取

調査地： 苫小牧市字美沢207-1

調査期間： 平成29年4月19日から6月2日まで

調査面積： 1,250㎡

調査の概要

遺跡は国道36号から新千歳空港線に入ってすぐの左側の丘陵部で、過去に試掘調査が行われています。調査では、遺跡は確認されませんでした。土砂採取工事中に、工事業者から連絡が入り、現地を確認したところ、落とし穴を5基発見し、調査しました。



美沢25遺跡位置図

苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

苫小牧市埋蔵文化財調査センターまで

住所：苫小牧市末広町3丁目9番7号 電話：0144-35-2552

閉館日：月曜日（月曜日が祝日の場合翌日）、年末年始

伊達市 カムイタプコブ下遺跡 (J-04-089)

発掘主体：伊達市教育委員会

調査理由：学術研究

調査地：伊達市向有珠町203-1

調査期間：平成29年10月5日から10月14日まで

調査面積：180㎡

調査の概要

伊達市有珠地区所在のカムイタプコブ下遺跡は、平成22年度に添田雄二氏（北海道博物館学芸員）が実施した地質学調査の際に発見された近世アイヌ文化期の遺跡です。

当時の北海道では、特に寒冷な気候の下で爆発的な大噴火や噴火に伴う津波が発生したことが知られています。平成23年度から、そうした自然環境がアイヌの人々の暮らしに与えた影響を明らかにするための学術調査が開始されました。平成27年度からは科学研究費助成事業「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響」（基盤研究（B）研究代表者：添田）により平成30年度までの本格的な調査を計画しています。

遺跡の地表下には積もった年代のわかる火山灰や津波によって運ばれてきた海砂が確認されています。これまでの調査によって、これらの土の上下から遺構とよばれるチセ（アイヌ民族の住居）や畑跡、貝塚、墓址などが発見されてきました。火山灰や津波の砂を境に発見される遺構の種類が変わることから、噴火や津波によってアイヌの人々の土地利用の仕方が大きく変化したということがわかりつつあります。

今回の調査では昨年引き続き、1640年の津波の砂と1663年の火山灰に挟まれた畑の調査を行いました。また、畑のそばからは貝塚も見つかっています。それぞれの位置が重ならないことから、この畑と貝塚が同時に使われていた可能性が考えられます。

今後の調査では、これまでの調査で発見された遺構との関係性と畑跡から入手した植物のデンプンや貝塚出土の貝殻の分析結果を合わせることで、当時の人々がどのような環境の中で生活していたのか、そしてその生活が大きな災害によってどのように変化していったのかを明らかにしていく予定です。



1640～1663年に同時存在した貝塚（手前）と畑跡（奥）

この遺跡についてのお問合せや、伊達市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

◆カムイタプコブ下遺跡について

伊達市教育委員会 生涯学習課文化財係まで
電話：0142-23-3331

◆伊達市内の遺跡について

史跡北黄金貝塚公園まで
住所：伊達市北黄金町75
電話：0142-24-2122

ホームページ：<http://www.city.date.hokkaido.jp/funkawan/detail/00003312.html>

開館時間：9:00～17:00（4月1日～11月30日まで期間内無休）

厚真町 新町遺跡 (J-13-005)

発掘主体：厚真町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：厚真町新町92-3、124

調査期間：平成29年11月9日から10日まで

調査面積：6,030㎡（内、トレンチ調査面積70㎡）

調査の概要

新町遺跡は厚真町市街地から東に530mほどの位置にあり、厚真川とウクル川の合流点に突出した段丘の先端部に立地しています。

新町遺跡は現在のところ約49,000㎡と広範囲に及び、北半部は明治30年（1897年）以降、学校用地として校舎増改築に伴う造成工事が繰り返され、南半部は昭和25年からの公営住宅等の建設が進み、遺跡範囲の大部分が造成され多数の遺物が出土しています。しかし、これらの開発によって本来の地形を留める範囲は極一部に限られています。南端部において平成9年に再開発のための事前協議書が提出され、試掘調査の結果、約5,300㎡に包蔵地が残存していることが判明しました。今年度はこの北側に隣接する6,030㎡について、包蔵地の残存状況の確認調査を実施しました。

調査は対象範囲に20mメッシュを設定し、その交点に一部人力調査を併用で重機によるトレンチ4m×1mを15カ所、6m×1mを1カ所掘開しました。その結果、調査対象の約半分の範囲が支笏火山や樽前山起源の火山噴出物まで削平されており、包蔵地が消滅していました。残存部分のトレンチからは、1667年降下の樽前b火山灰の直下より焼骨片、縄文時代の土坑2基を検出しています。



調査地点位置図



土坑の検出状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

厚真町教育委員会 軽舞遺跡調査整理事務所まで

電話：0145-28-2733

開館時間：平日9:00~17:00

閉館日：土日祝祭日・年末年始

厚真町 富里1遺跡 (J-13-037)

発掘主体： 厚真町教育委員会

調査理由： 詳細分布

調査地： 厚真町字富里45-1

調査期間： 平成29年11月13日から14日まで

調査面積： 5,660㎡（内、トレンチ調査面積68㎡）

調査の概要

富里1遺跡は厚真町市街地より直線距離で北東に6.1km、厚真川河口から約25km遡った中流域右岸に位置し、標高44～50mの河岸段丘上の南向きの緩い斜面に立地しています。遺跡の背後にはこの地区のランドマークとなる標高180mのコムニヌプリ（地域名：檜山）があり、調査地点はその南麓にあたります。

この遺跡は、厚幌導水路や厚真町浄水場建設、農業基盤整備事業で広範囲に試掘や発掘調査が実施されています。今回は、この空白域で旧檜山小中学校のグラウンド用地における遺物包含層の残存状況について詳細分布調査を実施しました。

調査は、4m×1mのトレンチを17ヵ所設け、重機による掘削で盛土、火山灰層を除去し、アイヌ文化期から縄文晩期中葉までを人力精査、縄文晩期前葉以前の下層の黒色土を重機で掘削し、掘り上げた土砂の遺物等の有無を確認しています。黒色土の残存状況は比較的良好で、斜面上方は基盤層まで削平されていましたが、対象面積の約4分の3の範囲で黒色土が残存し、さらに厚真川寄りの南側のトレンチでは土坑1基、7ヵ所から遺物が出土しました。時期は出土層位より中世アイヌ文化期前半、続縄文文化期前葉と縄文時代晩期前葉以前を確認し、これまでの調査結果と合致するものでした。



調査地点位置図



調査状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

厚真町教育委員会 軽舞遺跡調査整理事務所まで

電話：0145-28-2733

開館時間：平日9:00～17:00

閉館日：土日祝祭日・年末年始



むかわ町 東雲1遺跡 (J-14-103)

発掘主体：むかわ町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：むかわ町穂別461

調査期間：平成29年10月28日から11月24日まで

調査面積：4.392㎡

調査の概要

東雲1遺跡は、穂別市街地から東南に1kmほど離れた、鶴川左岸の段丘上に位置しています。遺跡のある場所は、町の中村記念公園として整備されており、園内には、東雲1遺跡の他に、ニサナイ1遺跡や、アイヌ文化期のニサナイチャシ跡、東雲チャシ跡も所在しています。

平成29年度の発掘調査では、現地表面に残る擦文文化期の竪穴住居跡について、より詳細に遺構の内容を把握するために、トレンチを設定しました。竪穴住居跡は、2軒で、昨年度調査のトレンチを、拡張する形で調査を進めました。

発掘調査の結果、2号竪穴住居跡は、幅約3.6m、深さ約0.4mの大きさで、竪穴の外周に、掘り上げ土が残されていることが解りました。掘り上げ土を含めた竪穴の直径は、約7mあり、擦文文化期の竪穴住居跡としては、小形の部類に位置付けられます。また、竪穴住居跡の内部には、掘り上げ土が流れ込んでおり、このために、竪穴がなかば埋没している状態を確認することができました。竪穴住居跡の床には、地面を浅く掘りくぼめた炉跡があり、細かく砕かれた焼骨片が多量に出土しました。炉跡は、継続して使用されたらしく、火床部分が赤く焼けて硬化している状態を確認することができました。遺物は、覆土中から擦文土器のかけらや、台石、編み物石等の礫石器が、わずかに出土しました。1号竪穴住居跡の調査は、昨年度の調査で不足していた、掘り上げ土の幅を確認する程度に留めました。

穂別では、昭和30年代に、北海道立穂別高等学校郷土研究部が、精力的に所在調査を実施した経緯があり、上記した東雲1遺跡の他にも、穂別市街地周辺から穂別仁和に至る、鶴川の河岸段丘沿いの遺跡において、擦文文化期の竪穴住居跡の窪みが発見されています。

現在、北海道には、道東地方を中心として、約23,000基の竪穴住居跡が、窪みの状態で残されていると言われており、本町で発見された竪穴住居跡の窪みも、北海道の歴史文化を代表する埋蔵文化財であると位置付けられます。

発掘調査報告書は、平成30年度に刊行をする予定です。



2号竪穴住居跡の調査風景



東雲チャシ跡

この遺跡についてのお問合せは・・・

むかわ町教育委員会 生涯学習課社会教育グループまで
電話：0145-42-2487 mail：skyouiku@town.mukawa.lg.jp

美幌町 高野2遺跡 (I-06-005)

発掘主体：美幌町教育委員会

調査理由：農業関連（区画整理）

調査地：美幌町字高野166、177-1

調査期間：平成29年8月21日から12月6日まで

調査面積：105㎡

調査の概要

高野2遺跡は美幌町市街地より北西に約7km、北見市と美幌町との丘陵地帯の馬の背状のゆるやかな尾根上に立地しています。遺跡の標高は100m程となっています。高野2遺跡の調査は、道営農地整備事業豊高第2地区の区画整理工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。

試掘調査の結果、遺構は確認されませんでした。尾根上の試掘ピット28ヵ所から197点の遺物が出土しました。出土範囲は尾根上に限られていたことから、高野2遺跡の範囲は尾根上から広がらないものと考えられます。なお、遺跡は試掘調査の結果から過去の耕作や削平作業によって既に破壊された状況であることが明らかになりました。

遺跡の時期は、調査区の隣接地から北筒式土器の破片が出土していることから縄文時代中期末葉～後期初頭と考えられます。



遺跡位置図



調査風景

この遺跡についてのお問合せや、美幌町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

美幌博物館まで

住所：美幌町字美禽253-4

電話：0152-72-2160

美幌町 みどり6遺跡 (I-06-134)

発掘主体：美幌町教育委員会

調査理由：農業関連（区画整理）

調査地：美幌町字美禽332-5・14・15・16

調査期間：平成29年11月1日から12月6日まで

調査面積：148㎡

調査の概要

みどり6遺跡は美幌町市街地より北西に約3km、北見市と美幌町との丘陵地帯を流れる木禽川の右岸丘陵上に立地しています。遺跡の標高は70m程となっています。みどり6遺跡の調査は、道営農地整備事業豊高第2地区の区画整理工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。

試掘調査の結果、遺構は確認されませんでした。試掘ピット2カ所から7点の遺物が出土しました。所在調査による遺物の出土範囲と試掘調査による遺物の出土位置から、みどり6遺跡の範囲は丘陵上5,000㎡程と考えられます。なお、遺跡は試掘調査の結果から過去の耕作や削平作業によって既に破壊された状況であることが明らかになりました。

遺跡の時期は、黒曜石の石器や剥片しか出土していないことから明らかになっていません。



遺跡位置図



調査風景

この遺跡についてのお問合せや、美幌町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

美幌博物館まで

住所：美幌町字美禽253-4

電話：0152-72-2160

利尻富士町 沼浦海水浴場遺跡・沼浦遺跡

(H-10-016・017)

- 発掘主体：利尻富士町教育委員会（礼文・利尻島遺跡調査の会）
調査理由：学術研究
調査地：沼浦海水浴場遺跡：利尻富士町鬼脇字沼浦132・145・146番地
沼浦遺跡：利尻富士町鬼脇字沼浦99番地
調査期間：平成29年4月28日から5月15日まで
調査面積：沼浦海水浴場遺跡 16.5㎡
沼浦遺跡 8㎡

調査の概要

沼浦海水浴場遺跡・沼浦遺跡は、利尻島の南東部に所在する沼浦地区に位置しており、標高4～5mほどの砂浜海岸に立地しています。本地区は、アイヌ語で「ヲタトマリ（砂浜のある入江）」とよばれ、周辺には沼浦湿原やオタトマリ沼などの景勝地が広がっています。

沼浦地区は、明治時代においてすでに遺物採集の記録があり、その後昭和時代に入ってから小規模な試掘調査が数度にわたり行なわれました。各調査では、縄文時代やオホーツク文化期を中心とした土器や石器のほか動物骨などが多数出土しています。

沼浦海水浴場遺跡は、平成28年につづく2次調査で、さらにテストピットを設定し、遺跡のひろがりを確認しました。また、幾重にも堆積した魚骨層とオホーツク文化期（貼付文期）の墓壇について精査することができました。

沼浦遺跡では、鈴谷式土器が出土しましたが、遺構はピットのみでした。また、近代と思われる道路状遺構と銭貨が発見されています。

沼浦海水浴場遺跡については、次年度についても継続調査が予定されています。



遺跡全体



沼浦海水浴場遺跡の魚骨層（B区）

この遺跡についてのお問合せや、利尻富士町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

利尻富士町教育委員会

電話：0163-82-1370

りっぶ館

住所：利尻富士町駕泊字栄町

電話：0163-82-1721

開館期間：5月1日～10月31日（9:00～17:00）

別海町 史跡 旧奥行臼駅通所 (未登載)

発掘主体： 別海町教育委員会

調査理由： 史跡整備（遺構確認）

調査地： 野付郡別海町奥行15-12

調査期間： 平成29年6月29日から7月31日まで

調査面積： 198㎡

調査の概要

史跡旧奥行臼駅通所は、明治43年に別海町奥行臼に設置され、昭和5年に廃止されるまで根室と別海の海岸部・内陸部を結ぶ交通の要衝として重要な役割を果たしました。

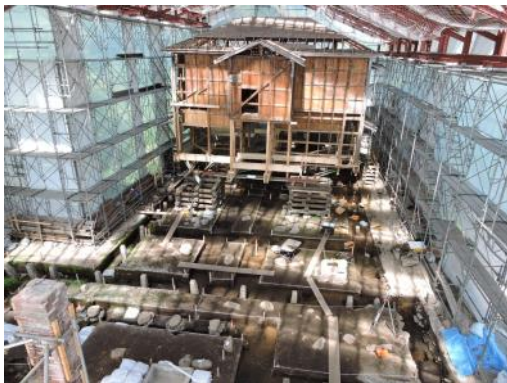
史跡の重要な構成要素である駅通所主屋は、明治36年～43年創建時の中央棟、大正9年増築の北棟、昭和16年増改築の南棟の3棟より構成されています。発掘調査は、駅通所主屋の修理工事実施に伴い行われたもので、主屋解体後コンクリート基礎を敷設し復元されることからコンクリート敷設部分の調査を行いました。また、北棟は、保存状態が良好なことから全解体せずジャッキアップを行い復元されることになったため、ジャッキアップの土台を設置する部分の調査も行いました。よって調査区域は、各棟の基礎にあたる部分になります。

北棟の基礎は、礎石に径40～50cmの自然石玉石を用い、径50～70cm、深さ45～55cmの隅丸方形の地業が施され、地業内は～10cmの円礫を含む砂利で固められていました。地業内から陶磁器片、釘、貝、獣骨などが出土しています。

中央棟、南棟の基礎は、礎石に全長75cmと50cmのコンクリート、径40～50cmの自然石玉石を使用し、径50～65cm、深さ50～70cmの隅丸方形、楕円形の地業が施され、地業内は～20cmの円礫、割石、コンクリート碎片により固められていました。また、南棟西側の一部の基礎は、地業を施さず盛土し礎石を設置していることがわかりました。中央棟、南棟の地業内から陶磁器片、釘、貝などが出土しています。

北棟は、建設当時そのままの姿を残していましたが、中央棟・南棟は、後年の増改築により古い時代の礎石が転用されているようです。

調査は、平成30年度も実施され、報告書の刊行は、平成30年度末となります。



調査の様子



中央棟基礎検出状況

この遺跡についてのお問合せは・・・

別海町教育委員会 生涯学習課文化財担当まで

電話：0153-75-2111

ホームページ：<http://betsukai.jp/blog/0002-1/index.php?ID=18>

中標津町 標津川9遺跡 (N-03-056)

発掘主体：中標津町教育委員会

調査理由：詳細分布

調査地：標津郡中標津町西8条北5丁目2番1

調査期間：平成29年8月15～19日、9月2日

調査面積：21.9㎡

調査の概要

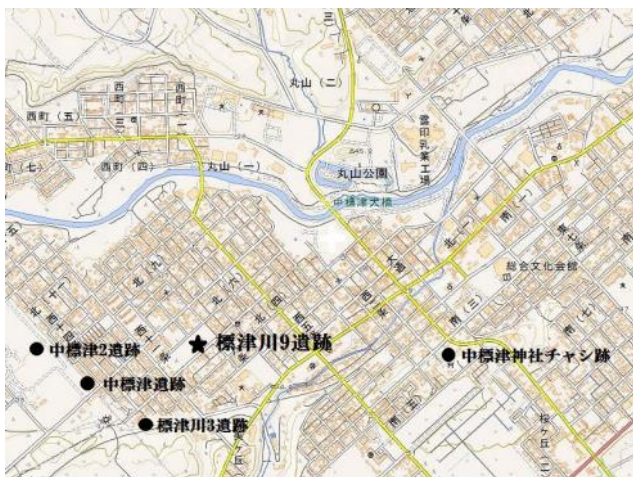
標津川9遺跡は中標津市街地北西部に所在し、標津川によって形成された標高35mの河岸段丘の右岸に立地しています。

本遺跡は、旧所有者から当町が埋蔵文化財の保存と活用を考慮して平成28年12月22日に購入したところであり、将来の土地利用に資するため平成29年度から複数年かけて遺跡の範囲及び性格の確認を目的として調査を行っており、来年度も実施予定です。

試掘調査の結果、22地点のテストピットから、3例遺構が検出されました。

また、遺物は、試掘及び表採から25点(土器片3点、石器4点、フレイク、チップ18点)を検出しました。

遺跡の時期は、昭和40年代に町民が縄文土器、後北式土器、擦文土器を表採しており、今回の調査においても、縄文土器(トコロ6類)の口縁部を表採していることから、縄文時代中期後葉から擦文時代後半期にかけて利用されていたと考えられます。



標津川9遺跡位置図



出土した縄文土器(トコロ6類)

この遺跡についてのお問合せや、中標津町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

標津町 ぽー川河岸3遺跡 (N-04-184)

発掘主体： 標津町教育委員会

調査理由： 詳細分布

調査地： 標津郡標津町字伊茶仁 1 番地21・22

調査期間： 平成29年 7月20日から 9月26日まで

調査面積： 12㎡

調査の概要

ぽー川河岸3遺跡は標津市街地から北に4kmほど離れた、ぽー川左岸の自然堤防上に位置し、地表面から窪みで観察できる堅穴6ヵ所が確認されています。ぽー川、伊茶仁川流域に窪みで残る大規模堅穴住居跡群、標津遺跡群の構成遺跡のひとつです。標津遺跡群の内容解明と将来の保存に向けた基礎情報を得るため、地元標津高校と共同による詳細分布調査を行いました。

平成29年の調査では、浅い長方形の堅穴窪み1か所に対し、幅50cmのトレンチを十字に設定し、発掘調査を行いました。調査の結果、窪みの中央付近で2つの炉跡が層を違えて検出され新旧2時期にわたり住居として利用された堅穴であることがわかりました。炉跡から検出された炭化物を対象に年代測定を行った結果、古い炉跡は13世紀前葉～中葉、新しい炉跡は13世紀後葉～14世紀後葉にかけての年代値が得られています。

出土遺物は、古い炉跡に関連する資料として台石と礫が、新しい炉跡に関連する資料として棒状礫で構成される集石と2点のガラス玉片がみつかりました。また新しい炉跡はサケ科魚類と思われる多量の焼骨片の他、小動物の骨等が含まれる灰層を伴っていました。

標津遺跡群は、発見当初擦文時代の堅穴群として認識され、その後の調査によって縄文時代早期からほぼ途切れることなく人が住み続けたことで残された堅穴群という認識に変わりました。今回調査を行った堅穴は、擦文時代終焉後の遺構である可能性があり、今後継続する調査では、従来よりもさらに幅広い時代幅の中で堅穴群の性格を考えていく必要がでてきました。

今後、同規模の調査を5年程度継続し、遺跡の詳細を確認した上で、報告書を刊行する予定です。



ぽー川河岸3遺跡遠景



調査の様子

この遺跡についてのお問合せは・・・

標津町ぽー川史跡自然公園まで

電話：0153-82-3674

E-mail：po-gawa@shibetsutown.jp

羅臼町 春苺古丹第2チャシ跡 (N-05-056)

発掘主体： 羅臼町教育委員会

調査理由： 自然崩壊・詳細分布

調査地： 羅臼町幌萌町40-1

調査期間： 平成29年5月16日から7月7日まで

調査面積： 151㎡

調査の概要

春苺古丹第2チャシ跡は、羅臼町の市街地より南西約11.5kmに位置し、根室海峡とポン幌萌川に面する標高25m前後の海岸段丘の先端にあります。平成27年4月24日に起こった大規模な地すべりによって遺跡の一部が崩壊してしまいました。このため、遺跡の記録保存を図るためにチャシ跡の一部を発掘調査しました。

調査では、立地と壕の形状から丘先式と面崖式の複合形式のチャシであることが判りました。また、チャシに付属する施設として壕、内郭土塁、郭外土塁、柵跡などが見つかっていません。

壕には1739年降灰の樽前a火山灰が堆積していたことから、これよりも古いということが判りました。また、チャシ構築時の旧表土面採取した炭化物の年代測定により16世紀後半から17世紀前半との結果が得られました。これにより、チャシの使用年代は16世紀後半から18世紀前半と思われます。

近世に奥蝦夷地と呼ばれたこの地域について書かれた文献は非常に少なく、断片的なことから、この地のアイヌ民族の生活を知るための貴重な遺跡ということが判ってきました。

この発掘調査の報告書は平成30年3月に刊行予定です。

遺跡のある場所は地すべり地に隣接していることから、現在立ち入り禁止となっています。



春苺古丹第2チャシ跡近景

この遺跡についてのお問合せや、羅臼町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

羅臼町郷土資料館まで

住所：羅臼町峯浜町307-1

電話：0153-88-3850

開館時間：9:00~17:00

閉館日：土日祝日・年末年始（ただし、7月1日～9月中旬は閉館日なし）

羅臼町 ポン幌萌川右岸遺跡 (N-05-083)

発掘主体： 羅臼町教育委員会

調査理由： 自然崩壊・詳細分布

調査地： 羅臼町幌萌町40-1

調査期間： 平成29年5月16日から7月7日まで

調査面積： 151㎡

調査の概要

ポン幌萌川右岸遺跡は春茹古丹第2チャシ跡の発掘調査のさいに、その下位の層より新たに発見された遺跡です。

調査では、チャシ跡の土塁の下でアイヌ文化期の炉跡1ヵ所が発見されています。また、段丘の先端部ではトビニタイ文化期の土壙墓が6基見つかっています。これらの土壙墓の上には大型の礫が複数個配置されています。

この土壙墓の一つからは錫製環飾が2点出土しています。また、土壙墓の周辺からはトビニタイI式土器の破片が8点見つかっています。

羅臼町ではトビニタイI式の土壙墓の発見は初めてであり、その立地や埋葬方法について知る貴重な資料となりました。また、今回発掘を行なった範囲の外にも、土壙墓に伴うと思われる配石の一部が、現在の地表面で観察することができます。

この発掘調査の報告書は平成30年3月に刊行予定です。

遺跡のある場所は地すべり地に隣接していることから、現在立ち入り禁止となっています。



土壙墓に伴う配石



錫製環飾の出土状態

この遺跡についてのお問合せや、羅臼町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

羅臼町郷土資料館まで

住所：羅臼町峯浜町307-1

電話：0153-88-3850

開館時間：9:00~17:00

閉館日：土日祝日・年末年始（ただし、7月1日～9月中旬は閉館日なし）

羅臼町 春松中学校遺跡 (N-05-084)

発掘主体： 羅臼町教育委員会

調査理由： 詳細分布

調査地： 羅臼町八木浜町145-3、145-4、145-6、146-1

調査期間： 平成29年9月8日

調査面積： 2㎡

調査の概要

春松中学校遺跡は羅臼町の市街地より南西約6kmに位置しています。標高5m程の海岸低地に立地しています。遺跡は春松中学校の敷地内にあります。現在は埋もれてしまい判りませんが、遺跡は後背地の湧水から流れる2本の沢に挟まれていたといわれています。

これまで、続縄文時代の土器や石器の他に鉄刀が発見されたといわれております。

このため、羅臼町教育委員会では詳細分布調査を実施し、その結果新たに遺跡として登載しました。



春松中学校遺跡近景

この遺跡についてのお問合せや、羅臼町の遺跡をもっと知りたい方は・・・**羅臼町郷土資料館まで**

住所：羅臼町峯浜町307-1

電話：0153-88-3850

開館時間：9:00~17:00

閉館日：土日祝日・年末年始（ただし、7月1日～9月中旬は閉館日なし）

平成30年3月 発行

市町村における発掘調査の概要 平成29年度(2017年度)

編集・発行

北海道教育庁 生涯学習推進局 文化財・博物館課

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目

TEL 011-231-4111 内線35-606